

東京医療保健大学 ヘルスデータサイエンスプログラム

東京医療保健大学において知識社会に欠かせない教養である「数理・データサイエンス・A I」への関心を高め、かつ、これらを適切に理解し、医療保健分野で活用する基礎的な能力を育成するために、ヘルスデータサイエンスプログラム（HSP）を設けています。

履修要件を満たした場合には学長から修了証が交付されます。

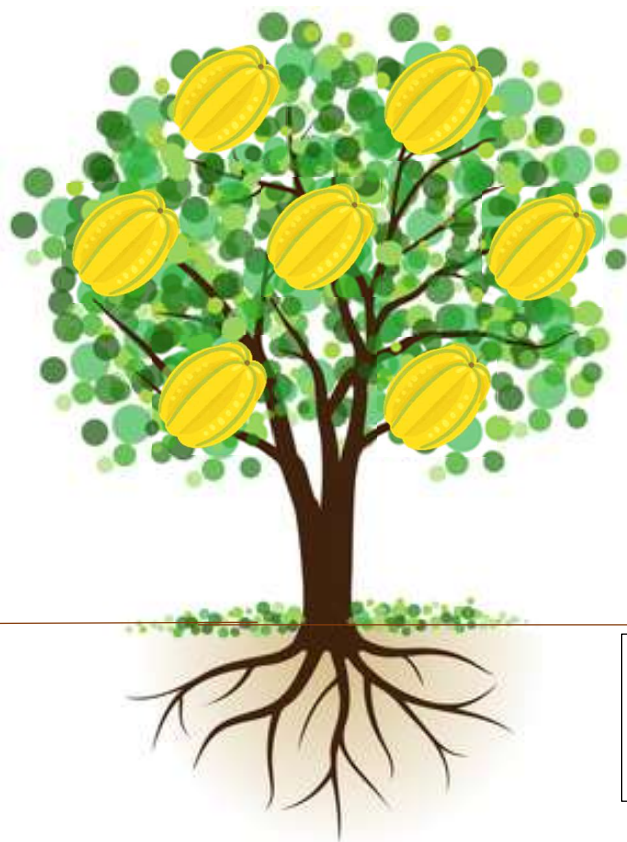
H S Pは、2つの科目群から構成され、Ⅰ群科目「ヘルスデータサイエンスの基礎」とⅡ群科目「社会におけるヘルスデータサイエンスの活用」を履修することにより、各学部・学科の学位授与方針と深く関係する次に掲げる能力を修得することを目指しています。

学部・学科	プログラムで身につけられる能力
医療保健学部看護学科	医療保健看護分野において情報化に対応できる幅広い視野と <u>データサイエンス</u> を活用するスキルを持って地域社会の要請に応えられる能力。
医療保健学部医療栄養学科	食に関する情報を収集し、 <u>データサイエンス</u> を活用してその情報を活かせる疾病の一次、二次予防の担い手としての知識を修得し、食生活改善のための計画・実行・評価を実践できる能力。
医療保健学部医療情報学科	医療情報の分析とマネジメントで必要となる、医療制度や診療情報に関する基礎的な知識を、 <u>データサイエンス</u> に基づき活用する手法を持って実践できる能力。
東が丘看護学部看護学科	発展・進化する看護の知識・技術を積極的に探求し、 <u>データサイエンス</u> の活用を通じて自らも看護・看護学の発展に創造的に関わる能力
立川看護学部看護学科	災害等の健康危機や健康課題に対して、 <u>データサイエンス</u> の活用を通じて看護・看護学の専門性を発揮し、地域社会、国際社会において、看護を実践できる能力。
千葉看護学部看護学科	情報ネットワーク化に対応できる視野と、 <u>データサイエンス</u> を含めた情報スキルを持って地域社会のニーズをとらえ創造的に応えられる能力。
和歌山看護学部看護学科	言語能力を基礎としたコミュニケーションスキル、グローバル感覚、 <u>データサイエンス</u> を含めた数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力といった、知的社会生活に必要な学士にふさわしい汎用的技能を有する能力。

【プログラム概要】

このプログラムは、高等学校でのレディネス（数学Ⅰや情報Ⅰでの学び）を「果樹の根」、本学でのⅠ群科目を「果樹の幹」、同じくⅡ群科目を「果樹の実」というイメージで構成されています。Ⅰ群科目である「ヘルスデータサイエンスの基礎」には、情報リテラシーや統計リテラシーが含まれます。これらは職種に依存しない社会人としての教養ですので、全学部・学科で共通して学びます。また、Ⅱ群科目である「社会におけるヘルスデータサイエンスの活用」にはヘルスデータと社会問題の解決、ヘルスデータと倫理が含まれます。本学ではどの学部・学科も医療保健分野の専門職になって社会問題の解決を目指すカリキュラムであることから、これらの科目では学部・学科ごとの専門性を活かした内容に枝分かれします。

Ⅰ 群科目＜全学共通＞
Ⅰ－１「情報リテラシー」
Ⅰ－２「統計リテラシー」



Ⅱ 群科目＜各学部・学科独自＞
Ⅱ－１「ヘルスデータと
社会問題の解決」
Ⅱ－２「ヘルスデータと倫理」

レディネス
数学Ⅰ「データの分析」
情報Ⅰ「情報社会の問題解決」

【カリキュラム表】

どの学部・学科でも必修科目を中心にカリキュラムを組んでいますので、H S P の受講手続きを行う必要はありません（関連科目の履修登録をもって自動的に登録されます）。H S P は、Ⅰ群科目のすべての単位を修得し、Ⅱ群科目のいずれかの科目で単位を修得すると修了認定を受けることができます。修了認定を受けることができる時期は、学部・学科により異なります。

学部学科・コース名		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
医療保健学部	看護学科 医療保健看護コース	<u>情報リテラシー</u> <u>データサイエンス</u> 情報科学 公衆衛生看護援助論Ⅰ	疫学・保健統計論 公衆衛生学 地域保健活動演習 情報通信と保健医療		
	医療栄養学科 健康栄養データコース ※3・4年次開講6科目中5科目を履修すること。	<u>情報リテラシー</u> <u>データサイエンス</u>		公衆栄養学Ⅰ 公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習 栄養生理学実験 地域栄養学実習	卒業研究
	医療情報学科 データエンジニアリングコース	<u>情報リテラシー</u> 情報科学 生体情報演習Ⅰ プログラミング演習Ⅰ	<u>データサイエンス</u> データベース演習Ⅰ 情報通信と保健医療		
東が丘看護学部看護学科 臨床看護データコース		<u>情報リテラシー</u>	<u>看護情報学・統計学演習</u> 公衆衛生学	看護研究の基礎	卒業研究
立川看護学部看護学科 地域・災害看護データコース		<u>情報リテラシー</u> <u>実践統計学</u>	医療・看護情報学の基礎 医療・看護論文の講読 公衆衛生学	看護研究の基礎	
千葉看護学部看護学科 地域保健・医療データコース		<u>I C T リテラシーⅠ</u> <u>データサイエンス</u>	疫学・保健統計 地域保健活動演習	医療における質の保証Ⅱ	地域保健・医療の推進
和歌山看護学部看護学科 地域看護データコース		<u>情報リテラシー</u> <u>データサイエンス</u> わかやま学 情報科学概論	疫学・保健統計論	看護学研究基礎	

下線部は、Ⅰ群科目を示します。

【HSPの履修により想定される利点】

HSPを修了して修了証を得ることにより、在学中でも履歴書に「東京医療保健大学 ヘルスデータサイエンスプログラム修了」と記載することが可能になります。これにより「医療保健分野のデータサイエンスに強い看護職（看護師・保健師・養護教諭）／管理栄養士／情報処理技術者」としての活躍が見込まれる人材であることを、履歴書などで客観的に示すことができます。これは就職活動に限ったことではなく、その後の職務経験においてもヘルスデータサイエンスの素養を必要とする職域や業務（医療・福祉系の施設であれば研究活動、企業であればマーケティング活動など）に登用される可能性を高め、HSPを修了した学生の皆さんのキャリア形成に役立つものであると考えています。

また、卒業後に大学院進学を検討することになった際にも、医療保健系を含む自然科学系の大学院ではデータサイエンスの素養が必須であることから、その素養を有するものであることを示すことができます。

【プログラムの実施体制と品質保証】

HSPは本学が独自に行うものですが、このプログラムは全国の大学で構成する「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム」のモデルカリキュラム（リテラシーレベル）をもとに作成しています。このコンソーシアムは、国立の6大学（北海道大学、東京大学、滋賀大学、京都大学、大阪大学、九州大学）を拠点校にモデルカリキュラムなどの構築を行っており、本学も医療保健系大学としては早い時期に連携校になりました。

本学では、全国の大学で行われているデータサイエンス教育の水準に遜色ない教育プログラムを学生の皆さんに提供していきたいと考えています。このため、HSPは全学共通開講と位置づけ、大学本部に設置する教務委員会（全学教務委員会）に共通科目ワーキンググループを置いて次の役割分担のもと運営を行っています。

プログラム運営責任者	教務担当副学長（全学教務委員会委員長）
プログラム運営組織	共通科目ワーキングワーキンググループ
I 群・II 群科目運営組織	各学部・学科
I 群・II 群科目運営支援組織	学修基盤推進室
プログラム自己点検・評価・改善	全学教務委員会